

科目名	慢性看護学Ⅲ特論 Advanced Lecture on Chronic Care Nursing Ⅲ
授業形態	講義
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	秋AB学期 木曜3・4時限
実施場所	共同利用棟B 204
単位数	2単位
担当教員名	日高紀久江 Hidaka Kikue 柴山 大賀 Shibayama Taiga
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	事前に確認し訪室すること
授業の到達目標 (学習成果)	慢性病の様々な変化する時期に対応した支援技術の理論と方法について理解する。
他の授業科目との関連	
履修条件	特になし。
授業概要	講義で教授した総論的知識を、学生自身がさらに深めてプレゼンテーションをし、それをもとに教員や学生同士で討論を行う。
キーワード	慢性病(chronic disease)、病期の特徴(characteristic of the stage of a disease)、看護支援(nursing support)
授業計画	1(〃)慢性病の経過に対する理解(1) 発症予防(日高・柴山) 2(〃)慢性病の経過に対する理解(2) 発病期(日高・柴山) 3(〃)慢性病の経過に対する理解(3) 慢性安定期(日高・柴山) 4(〃)慢性病の経過に対する理解(4) 急性増悪期(日高・柴山) 5(〃)慢性病の経過に対する理解(5) 進行期(日高・柴山) 6(〃)慢性病の経過に対する理解(6) 終末期(日高・柴山) 7・8(〃)慢性病の経過に対応する支援技術の理論と方法(1)慢性疾患の予防(日高・柴山) 9・10(〃)慢性病の経過に対応する支援技術の理論と方法(2)診断・治療に伴う専門的看護支援(日高・柴山) 11・12(〃)慢性病の経過に対応する支援技術の理論と方法(3)自己管理支援・患者教育(日高・柴山) 13・14(〃)慢性病の経過に対応する支援技術の理論と方法(4)リハビリテーション(日高・柴山) 15・16(〃)慢性病の経過に対応する支援技術の理論と方法(5)症状マネジメント(日高・柴山) 17・18(〃)慢性病の経過に対応する支援技術の理論と方法(6)倫理調整(アドボカシー・自己決定支援など)(日高・柴山) 19・20(〃)慢性病の経過に対応する支援技術の理論と方法(7)ターミナルケア(日高・柴山)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	各自の専門領域を基盤として、病いとともに生きる人々の立場に立ち、背景にある問題の具体例や解決方法について、積極的に思考する態度をもつこと。自ら諸理論の解釈をおこない、教員や他の学生との討論によって、臨床現場における応用力を向上させること。
成績評価方法	評価方法と評価配分 発表と討論の内容(50%)、レポート(50%) 評価基準 1 慢性病の経過について説明できる。 2 慢性病の経過に対応した支援技術の理論と方法について説明できる。 3 慢性病の経過に対応した支援技術の理論と方法について、自らの意見をのべることができる。 4 講義や発表内容について、科学的、論理的な視点からの討論により、専門性の高い看護実践をおこなうための課題や方向性を提示できる。  上記に対応した評価基準は以下のとおりである。 A+ 上記1～4を自身で達成できる。 A 上記1～4をほぼ自身で達成できる。 B 上記1～4を教員の指導を受けながら達成できる。 C 上記1～4を教員の指導を受けながら概ね達成できる。 D 上記1～4を教員の指導のもとでも達成できない。
教材・参考文献・配布資料等	適宜参考資料を提示する。
その他(受講生にのぞむことや 受講上の注意点等)	わからないことは、その場で質問し解決すること。